

第5回高知県公立大学法人評価委員会 議事要旨

平成22年8月3日(火) 13:00~16:00

場所：高知共済会館4階 浜木綿の間

出席者

評価委員：藤戸謙吾(委員長) 青木章泰 荻上紘一 寺田覚 船橋英夫
県：村山文化生活部副部長 土居私学・大学支援課長 林課長補佐
中村チーフ 石田
高知工科大学：篠森教育センター長 久武総務統括部長 大塚財務部長

委員長

年度業務実績報告書について、法人から説明をお願いします。

高知工科大学

・・・説明・・・

C委員

学群の中に専攻を置いているが、両者の関係は。

高知工科大学

専攻に主専攻と副専攻があり、学生は所属する学群以外の専攻を副専攻にすることができる。これにより、幅広い教育を提供できる。入学後に学群を変更することも可能。

C委員

大学生の学力低下に対して、工科大の対策は。

高知工科大学

リメディアル教育として、入学後の数学・英語・理科のプレースメントテストを行い、クラス編成をした上で学習機会を提供している。また、1年次から履修する専門科目についても履修している。こうしたことは、法人化以前から実施している。プレゼンテーション力、文章力等についてもトレーニングしている。

C委員

報告書によれば就職率が高いとのことだが、この数字に表れていない就職留年等が存在するのではないか。

高知工科大学

公務員学校に通うなど、就職留年等は存在する。これを母数に入れると、就職率は86%から88%。

事務局

学生は県外出身者が多いが、高知県内の就職割合はどうか。

高知工科大学

今春は約26%。

A委員

学群制にしたことの効果はどうか。

高知工科大学

学生募集に効果あり。受験生は、学科よりも幅の広い学群を好感している。

教員サイドでは、学群内の教員間で刺激を受ける機会が増えた。

A 委員	今の大学は、組織である学科から、学位プログラムの学群に移行する動きがあるが、工科大はそれを先取りしたと考えられる。
C 委員	志願者が前年度から急増したが、最も大きい理由は。
高知工科大学	法人化して学費の負担が減ったことと、公立のブランド、安心感。私学として長年努力してきた実績もある。
A 委員	学生の質はどうか。
高知工科大学	雰囲気が変わった。基礎学力を持った学生が以前に比べて増えた。
D 委員	年度業務実績報告書は全部で 88 項目あるが、同じような項目が異なる箇所に複数記載されているのはなぜか。
高知工科大学	一つの活動について、例えば教育、施設整備といった異なる視点で計画を立てて評価したため、複数の箇所に記載されている。
D 委員	T A、授業料免除等の給付制度の財源についてはどうか。
高知工科大学	T A は人件費の抑制に有効。授業料免除は、経済状況に恵まれない学生に高等教育の機会を提供するために実施しており、当面継続したい。
D 委員	科研費の採択者には、次年度に獲得資金の半額を給付する制度についてはどうか。
高知工科大学	これは学長裁量の研究支援費。科研費だけを見ると経営上厳しいが、科研費を取ってくる教員は他の外部資金も獲得する力があるので、全体としてはうまく行く。各年度に資金を平準化できるメリットがある。科研費が増えれば、より良い研究が可能になる。
A 委員	上手なやり方である。工科大の独自制度か。
高知工科大学	そのとおり。
B 委員	報告書では、機器を導入した、マニュアルを作成したといった記述が目につくが、これは本来の目的ではなく手段ではないか。
高知工科大学	教育がうまく行ったかどうか評価するのは難しい。今の評価制度上、教員、事務局がそれぞれの役割を果たせば評価することとなる。達成度については、6 年間の中期目標、中期計画において判断することになるのではないか。

B委員	年度評価も、中期計画を踏まえて評価する必要がある。
A委員	公立大学法人としては、今回の評価と別に認証評価を受ける必要があり、教育研究の内容については、主として認証評価の分野になる。 学生確保に関して、後期博士課程は充足率が非常に低いが、大学として対策はあるか。
高知工科大学	後期博士課程については、大学で検討した結果、平成24年度より定員を180人から75人に削減することを決定している。
A委員	了解した。
C委員	任期付き教員の募集方法は。
高知工科大学	公募するが、学群長等が声かけもする。
C委員	重点分野に多くの人材を採用するのか。
高知工科大学	重点分野を狭くとらえるのではなく、専攻で考えている。 近い将来、研究レベルが飛躍する見込みのある若手研究者を採用している。工科大は、優れた研究環境、資金面がセールスポイント。
A委員	優秀な若手の採用については、国にも同様の制度がある。工科大が独力で行っているのは特筆すべき。
C委員	地方にも元気のある大学があるが、工科大もその一つだと思う。工科大の目標は。
高知工科大学	目標は「大学のあるべき姿を追求して世界一流を目指す」。バイオなど特定の狭い分野ではなく、オーソドックスに幅広く取り組んでいる。
C委員	地域貢献も大事。
高知工科大学	世界と日本で通用すれば、地域にも貢献できる。
委員長	地域貢献として、新荘川プロジェクト、芸西村プロジェクトがあるが、進捗状況は。
高知工科大学	いずれも地域に入って、大学ができることを行おうとするもの。新荘川の方は流れができています。
委員長	次に、財務諸表について法人から説明をお願いします。

高知工科大学	．．．説明．．．
D委員	実績報告書では資産の有効活用が評価されているが、財務諸表では固定資産に遊休資産がある。
高知工科大学	学校法人時からの遊休資産について売却を凶っているが、買い手が見つからないために未だ売却されていないものがある。
D委員	貸借対照表上の有価証券評価差額金は、取得額と評価額の差か。
高知工科大学	そのとおり。
D委員	行政サービス実施コスト計算書の説明をお願いします。
高知工科大学	．．．説明．．．
D委員	附属明細書によれば、広告宣伝費が1億1千900万円とあるが、額として適切か。
高知工科大学	主な用途は学生募集。学校法人時、多い年は3億近くあった経費であり、減額した結果である。
B委員	有価証券の金額根拠は。
高知工科大学	平成21年4月1日の時価評価額である。
B委員	実績報告書の様式は統一的に定められているのか。
高知工科大学	大学によるが、このような形が多い。
委員長	法人からの説明と質疑応答は以上とする。 ．．．法人職員は退席．．．
	※休憩
委員長	再開する。 財務諸表を原案通り承認してよろしいか。
他委員	異議なし。
事務局	財務諸表を原案どおり承認する。

委員長	評価書案について、事務局から説明をお願いします。
事務局	・・・説明・・・
B委員	職員研修は一定行われているが、自己評価が低い。
A委員	組織的、体系的に行われなかったと自己評価したのではないか。
D委員	平成21年度は公立大学法人としての初年度であり、事務局の負担が大きかったために研修が必ずしも十分に行われなかったと考えられる。
A委員	職員研修は大学運営において改善を要する部分だが、工科大はプロパー職員が多いことから、他の公立大学に比べて良い状況にある。 報告書における小項目評価はほとんどがSかA。非常に良いが、次年度以降もこのレベルを維持できるかどうか。
D委員	今回は初年度であり、前年度との比較ができないため、評価がむづかしい。
A委員	工科大は、年度計画はほとんど全て達成したと自己評価している。 本日の説明者も、内容を十分に理解しており、全ての質問に対して適切に答えていた。年度計画に無理な部分もなかった。
D委員	年度計画がほとんど数値化されていない。
A委員	そのとおりだが、この計画を前提として評価している。
委員長	報告書の小項目はほとんどがSとA。今回の評価方法はこれでよいか。
A委員	報告書とヒアリングで評価する以外に方法はない。
C委員	A委員と同意見。工科大の実績は高く評価したい。 評価書案に、報告書の大項目別評価の状況が記載されているが、これは大学による自己評価であり、評価書案に書くのは不適當。
他委員	そのとおり。
A委員	現在のやり方では、小項目別評価を当委員会で行うことは事実上不可能。
委員長	評価書案は小項目別評価にかかる該当箇所を削除し、その他は原案のとおりとする。

C委員	報告書を含めて、本日の資料は情報公開の対象となるのか。
事務局	そのとおり。
委員長	評価書案について、なお追加意見がある場合は8月10日までに事務局までお知らせいただき、修正については、委員長に一任をお願いします。 また、剰余金の繰越しについては、次回、業務実績に対する評価を経て、評価委員会として判断したい。 事務局から、今後のスケジュールの説明をお願いします。
事務局	・・・説明・・・
委員長	本日の会は、これで終了する。(了)